

## 事後評価シート

調査研究課題名	スポンジ化した都市空間における低未利用ストックの利活用促進に向けた地域マネジメント手法に関する調査研究
担当者	研究官 伊藤夏樹 研究官 石井義之 研究調整官 多田智和
① 当初目標と目標達成度	<p>近年、空き地や空き家、空き店舗等の低未利用ストックがランダムに発生する「都市のスポンジ化」が顕在化しつつあるが、これらを資源として利活用することができれば地域の生活の質の維持向上につながる。本調査研究は、地域が主体となり、低未利用ストックと地域活動等のマッチングを通じて課題解決を図るための手法を検討するものである。</p> <p>本調査研究では、まずスポンジ化の実態について主因となる世帯減少をもとに把握し、地方都市の既成市街地で継続的に発生しており、近年は地方都市の郊外部や東京近郊でも生じつつあることを確認した。また、先進事例へのヒアリングを行い、低未利用ストックの利活用を進める際の課題や工夫を収集した。また、こうした取組の関係主体（活動団体、自治体、地域金融機関）へのアンケート調査、実際にスポンジ化傾向がみられる住宅地における関係者によるワークショップの実践を通じて低未利用ストックの利活用に至るまでの各プロセスを検証し、マネジメントの留意点を整理することができた。</p> <p>したがって、当初の目標を達成できたものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>今後はより広範な市街地でスポンジ化が顕在化してくることが見込まれる中で、その実態を把握できたこと、また、低未利用ストックの利活用による地域マネジメントに関して、先進事例調査により各プロセスでの課題や工夫等の知見が得られ、具体のフィールドでの検証を通じて留意点を整理できたことは、地域が主体となった低未利用ストックの利活用を進める際に有用な知見を提供しうるものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進めるにあたり、まちづくり等を専門とする有識者による意見交換会を設け、調査方法や成果の取りまとめ等について助言を得ながら進めた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を報告書の形に取り纏め、当研究所のホームページで広く公表する。</p>
⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究内容を令和元年、令和2年の当研究所主催の研究発表会で報告したほか、大学の講義やフォーラムでの発表を行った。</li> </ul>